二十二日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵　税 金十五錢
□一部賣 金三錢
□廣告料一行 金六十錢
□雜報欄 金九十錢
□場所指定一行 金一圓増
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八五八五
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯印刷人 森合英

閑伽井嵐

マンネリズムと私

赤井嶽男

朝七時頃出勤して大体九時過ぎ頃迄毎日原稿書きを繰返した自分が既往二十餘年に亘る新聞記者生活中に書きなぐつた原稿の分量は蓋し等身の形容も強ちさしたる誇張では無く隨つて中には白い新聞は出されぬ!!と云ふ責任感から、單に紙面を黑くする目的以外何物も無い空疎にして安價な今更顧みて讀者に對して慚汗禁じ得ざるものある反面、また何かの問題を提げて生死の稜角に健氣な敢闘を續けた底の眞摯な文辭も自分の生きて來たこの期間の平市政其他諸事黎明期に至つたなどの關係から必ずしも絶無ではなく、之らは古新聞整理の折などに讀み返しては一種の錯綜した甘酸い様な感傷にひたる事が一再でない、その度毎に斷じて自已陶醉に陷つてはならぬ!と心に叱り乍ら沁々と省られるのが、極めて安價な自已のマンネリズムではあるが、之がまたある機會に測らずも見つけた自分の少年時代の樂書きに已が心の故郷に還つた樣な懷しさを覺えずには居れぬ、近頃本紙に見え出した『平の今昔』も實は何年か前に或る日の埋め草にした自分の筆のすさびであり、何人の蒸し返しか微笑ましい事に思はれたのであつた、

文化映畫を作者の獨りよがりな自己陶醉の道具にしてはならぬ。映畫は國民すべてのために存在しなければならぬ　（澤村勉）

磐城の郷土研究回顧

岩手縣　山口彌一郎

七、磐城地方の郷土研究

柳田先生がお立寄りになつた際は講演及び座談會を一部の人々に公開したが、その主點は磐城に於ける「しんめいさま」に就いて中央の學者が如何に考へ、その研究を期待してゐるかに就いてであつた。神明樣が仙台の『とうでさま』山形の「おくないさま」南部の「おしらさま」と同一系統であり、現存東北にのみ殘存する特異な民間信仰で、磐城は其の略々南限界に相當してゐる。二十年前ロシヤ人のニコライ、ネフスキーが高木氏を訪ねて若干の資料を採集して行つた以外、民俗學界では種々の異說等があり、相當問題になつてゐるのに、一向貴重な地域にある磐城より資料が出てゐない。此の調査は現在「神明樣がありますか」と聞く事は「乞食をした事がありますか」と言ふ風に解され易いので容易ではない。然し磐城の民間信仰としては最も重要なものなので、先づ高木氏に「磐城のしんめいさま」と題し、舊文献、諸說等を整理して戴き、和田文夫君が資料蒐集の主任者となつて「旅と傳說」の昭和十三年十一月に「磐城のしんめい資料」と題し、整理して發表する迄に至つた。今後も若干の資料は追加されようが、これ以上磐城に於て掘り下げる事は困難であると思はれる。その發表は中央の學界を刺戟して相當の紹介や批評があつた事を記憶してゐる。私はこれを報知新聞の昭和十五年二月六日付の全國版にも詳細述べておいた。

特異な民間信仰として、磐城に最もその標式的なものが殘存してゐると思はれるのは「あんば樣」である。「民間傳承」の昭和十四年十一月號に磐城に現行する大要を發表した際民俗學界では實に稀有の信仰として、續々他地方の資料の提供をも求めたが、倘ほ我々の蒐集した以上のものは出て居ない。その正体も全く摑めないでゐる。柳田先生よりも此の研究には意外の激勵を受けて、利根川圖譜にある大杉大明神や、嬉遊笑覽の資料等示されたが、此の研究はまだ遂げてない。昨年七月約十日程和田文夫君を岩手へ呼び、種々の民俗調査を依賴したが、その一はこのあんば大杉大明神が宮城縣氣仙沼町、岩手縣山田町、宮古町等に殘存するのでその北限界を見學させ度い希望に外ならなかつた。南部では現在房總附近にもあるが信仰の内容は既に變つてゐる。私は今後も磐城の殘務として手離さずには置く積りでゐるが、專ら和田君の今後の整理に期待してゐる。（この項つゞく）

雜詠

水戸部光雅

風寒き曉の街を元氣よく新聞かゝへ子等は出で行く
朝まだき部屋に集ひし男の子等の新聞たゝむ手は凍え居り
三ツ年の事務服をぬぎし吾は今和服姿に家事をいそしむ
湯上りの肌にふれて吹く風に春の温みを知る夕べかな
海鳴りの遠のき更けて折々に水鳥の鳴く音淋しき夜なり

彼岸頃（二）

露木柾夫

子の墓に詣づる母が心しのび吾があけくれはつつましくせむ
鐘の音のとほくに暮れし街空のひくき家並に曇りひろがる
眼をやみて一日こもればきさらぎの障子に赤く夕日さしけり
書よみてもの憂くつかる疊べにまなこを病めばすべなくし居る
爐にちかく父がはなしの言ふきけば一途になりしこころ悔ゆなり
むなしかるひと日の過ぎと爐にかけし鐵瓶があはれ湯鳴りをたつる

異說赤穂浪士（いせつあかほろうし）（178）

桃川若燕（講）
城木喬（畫）

僞切腹

裏門口から進み入つた大石主税、木村岡右衛門、間瀬孫九郎外三四人の同志は探ね〳〵て上野介の寢間へ押し入つたが、既に藻拔けの空、仕方がないので廣間へとつて返すと、ここにも大石を始め、吉田忠左衛門、小野寺十内、大高源吾、片岡源五右衛門などの重立つた面々は、苦惱の色を面に浮べて評議の最中、其處へ或は奥座敷又は離れ座敷へ斬り込んだ同志が追々集つて來るが、何れも上野介の行方不明を報ずるのみ。

同志の報告を受けて暫し默然としてゐた大石内藏之助はやがて寺坂吉右衛門、小野寺幸右衛門を呼ぶと、耳打をした。承はつて兩人は手を分けて投松火の火を消してしまひ廣間に聊かの松火を殘したのみ、廣間が薄暗くなると大石は一同を集め

『さて各々に申入れるのは外の儀ではない。吾々一味同心いたし一年九ケ月の間艱難辛苦をなしたるその甲斐もなく、御運强き吉良殿には何れへ、御立退きに相成りしか。これまで詮議をいたすといへども御行衛の分らぬ上は暫らくこゝに在つて上杉家の加勢の人數にでも出遇ひ却つて見苦しき恥辱を蒙らんとも限らぬ。それよりは今の内に當廣間を拜借いたし相並んで切腹を致さん拙者の心底、各々にもそのお覺悟あつて御生害の程を願ひたい

大石の言葉に一同肅然として聲を呑む折、吉田忠左衛門それへ進み

『如何にも御城代の仰せの如く、吉良の家來や上杉家よりの附人を何十人何百人斬つて棄てたとて、亡君お喜びはあるべき筈はなく、それよりは少しも早く冥土黃泉にお伴をなして殿樣にお詫び申すのが專一かと心得居ります』

『ウム、忠左衛門の申す通り生命を永らへて却つて恥を蒙るよりも假令少將殿は討たずとも當御邸へ推參致せば亡君には聊かはお怒りも靜まるであらう、それに就いても我々切腹の場所に上杉家より人數來らば一大事である依つて燈火は悉くしめし暗夜にて切腹致す事肝要と存ずる』

『如何にも仰せの如く假令この場で生命は落すとも殿樣への御奉公は必ず仕る吾々なれば御一統もその思召にして少しも早く御生害あるやう。各々松火をお消し下され……』

吉田忠左衛門の下知に一同は投松火の火をフッと吹き消す。その折全身血しぶきを浴びて廣間へ駈けつけた千馬三郎兵衛、堀部安兵衛の兩人、これは上杉の附人清水一角と渡り合つて手間どつたもの

清水一角は非番で表長屋にゐると眞夜中に耳に響いた太鼓の音、その中に聞ゆる人の聲、

『ハテ何事であらう…と耳を澄まして聞くとバラ〳〵ガタンガランと物の碎ける音がする。早くも氣付いた一角は、

『ウム、豫て噂のあつた、淺野の浪士に相違ない。斯るときの備へに召抱へられたる此の一角、よし刀の目釘の續く限り腕の續くまで斬つて〳〵斬り捲りくれよう…』

と身支度十分にして出ようとすると雨戸をパラ〳〵〳〵と射掛けるは半弓、これは千馬三郎兵衛が預かるところ、半弓を持つた者が六人で御長屋へ射掛け多くの人の出ぬやうにしたもの。

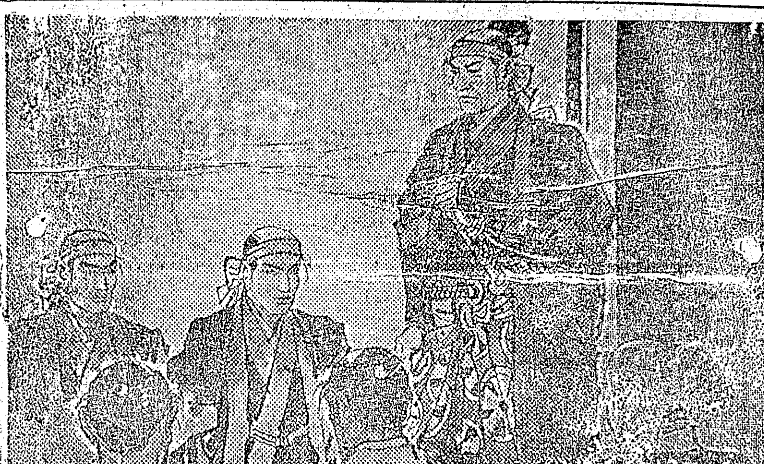
一角は揚板を持つて楯の代りとして矢を冐し雪を踏み分けて行く早くもこれを認めた千馬三郎兵衛

『コレ〳〵其方は何れへ行くのだ……』

『ヘエ小者でございます』

『何れへ行くと訊ねるのだ……』

と云ひ乍ら詰めよつた。



磁器治療開業
マグネタイザー適應症
◉高血壓 ◉胃腸病 ◉蓄膿症 ◉痔疾患 ◉中風 ◉脚氣 ◉泌尿病 ◉心臓病 ◉神經痛
◉生殖器諸症 ◉カリエス ◉呼吸器病 ◉婦人病 ◉小兒虛弱體 ◉ロイマチス ◉ゼンソク ◉其他諸症治療
治療所 平市田町シンガーミシン會社二階
平磁惠院物理治療

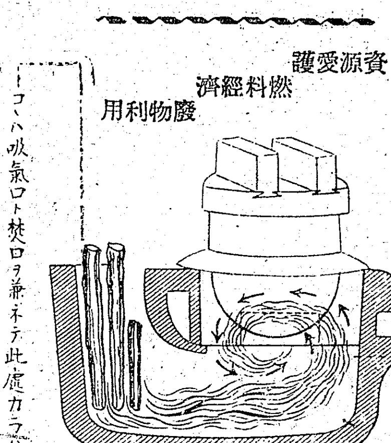
内科 外科 小兒科 花柳病科
會田醫院
小名濱町上横町

大衆向きの小口保險 三百圓より大口契約も
板谷生命保險株式會社
小名濱代理店 比佐政種
好條件で外交員募る

日本油脂株式會社 特約店
ペイント類、ボイール油 ドライヤー、防錆塗料 船底塗料、屋根塗料 黑板塗料、
一手販賣
イ 磐城水產工業株式會社
小名濱町築港内 電一四四

三笠燒 色羊羹 味自慢 風味萬點
モナカ屋がお茶受御土產として始めました、どうぞ最中と同樣御贔負を願ひます
平驛前中央通 米屋最中店

特許 久壽竈（クスカマド）
二升炊 六圓
三升炊 六圓五十錢
四升炊 八圓
主婦之友社生活館推獎
鐵の代用品で鐵よりズツト性能が優れてゐる薪代が鐵製の半分で濟む木屑でも落葉でも御飯が炊けて毎日の燃料費が五錢も六錢も得をしておいしい御飯が炊ける


資源愛護
燃料經濟
廢物利用
コノ火室内デ火炎ガグルグルト幾回モ回轉シテ熱ヲ貯溜
全密閉故温度ヲ冷サレナイ
コヽハ吸氣口ト焚口ヲ兼ネテ此處カラハ決シテ煙モ炎モ出ル事ガアリマセン

平市一丁目 武田陶器店 電話二二九番

國民擧つて防火塗裝を!
回危險に曝露する木造家屋
回手輕るに出來る防火家屋
回コロイド防火塗料の特長
カタログ進呈
專賣特許 太陽無機コロイド販賣店
大量使用の御注文並團体的御申込へは實驗の御希望に應じます
山田文一商店
平市仲町通り 電話二六二番地

世界的治療機 超短波 時代來る
四百四病の中『ガン』以外は必ず治ると東京帝大眞鍋嘉一郎博士の證明するアコマ超短波治療器にて一日も早く如何なる難病も實驗治療して下さい
お試し下さい 十日間程 無料實驗 朝八時より午後五時迄
福島縣總代理店 川崎松之介商店 平市新川町一四
特約店 丹野自轉車店 小名濱町

醫院開業
内科 小兒科 專門
午前宅診 午後往診
醫學士 石坂銈
平市六丁目五丁目 交番脇
石坂醫院

愈々運動のシーズン來る
スポーツ…… ハイキングに! 聖戰下の……體位向上を!
野球、庭球、陸上競技 球技、卓球、體操用具
ハイキング用具 ヂャンバーとズボン ワイシャツ （各種運動服裝類）
〔公定價格〕
靴と運動具の 大塚へ
平市田町銀座通り 電話七七番

シボレー フォード型 八ボールト 蓄電池
在庫品豊富 修繕は特に勉强
古川・ジエス・ナショナル・蓄電池代理店 東工業株式會社定置式木炭瓦斯發生機代理店
營業科目
蓄電池、高壓發電機、
自動車、船舶電機一般
充電機、礦山用エンジン
發電機、
平市紺屋町 久野電機
電話七二一番 振替東京一五一〇四番

純毛類の 純ドライクリーニングは誰が何んと言つても絶對 他店の追隨を許さぬ
ベンヂン純ドライクリーニング機械と優秀なる蒸氣仕上機械使用
白榮舍ランドリー （クリーニング用の高級原料は豊富に準備してあります）
他店でお氣に召さぬ時は是非一度御試し下さい
正直な仕事と優秀なる技術を お望みの方は
設備を誇る平市田町の 白榮舍ランドリー
平市地區洗染同業組合員

平病院（元共濟病院跡 電話四一番）
院主 院長 醫學博士 鈴木定藏
内科、小兒科 レントゲン科 物理的療法科 院長 鈴木定藏
内臓一般外科 皮膚泌尿器科 副院長 島崎俊幸
藥劑師 部長 吉本幸平
毎日午前八時より午後九時まで夜間診療に應じます 急患は此の限りにあらず

建築木材ノ御用命ハ
木材、天井板 ベニヤ板 建具材 木羽、建築材 便利瓦一式
織田材木商店
平市 電四九〇番
磐越東線赤井驛前 製材工場（大作場）電二三五

工員募集
一、求人者 福島縣石城郡小名濱町 日本水素工業株式會社小名濱工場
二、應募資格及人員 年令十五才以上の男子 一〇〇名
右優遇採用す
三、寄宿舍其ノ他福利施設完備
四、申込方法 履歷書一通提出ノコト
五、申込場所 平市田町 平國民職業指導所

口腔外科 齒科一般
森合齒科醫院
院長 森合芳男
植田町 電話七一番

磐城セメント 小賣指定
大谷石を賣始めました
野内商會
平市南町 電話一一番

護國の神鎮る靖國へ 光榮の遺族出發

平市から坂本上等兵家族上京

靖國神社の臨時大祭に新しく合祀される平市出身名譽の戰死者は
◇中平窪字辰の口 上等兵松本翁介
◇田町 大尉 廣瀬篤郎
◇上平窪 曹長 草野幸

の三柱でこの內廣瀬大尉の遺族は東京市小金井町に轉住、草野曹長の遺族も北海道札幌市に轉住してゐるため平市から直接上京する譽れの家族は松本上等兵の一家だけで父親の源吉さんと實姉スエさんが明廿三日午前二時十四分平驛發列車で上京護國の神鎮る靖國神社の大祭に參列感激の社頭で對面する松本上等兵は昭和十三年六月十七日山西省の○○の激戰で奮戰し名譽の戰死を遂げたものである

工業校起債通過

市立關係の廿八萬圓が難關

平市の工業學校關係起債十九萬圓は大藏省の査定を終へ近く正式認可の指令に接する模樣にあるため、今度は第五國民學校新築費二十五萬二千七百圓、商業學校增築費三萬六千六百圓合計二十八萬九千三百圓の起債認可申請書を提出することに成つた

前記二十八萬余圓と市立高女新設(九萬圓)は密接不離の關係にあり、全起債が萬一不許可か乃至は削減されるやうなことがあると高女新設案も結局延期か撤回の止むを得ぬ運命に立至るため第五校と平商の起債問題には市當局も必死の運動を續け、飽まで初志の貫徹に邁進することになつた

グライダー購入 航空思想普及

平商父兄會の贈り物

平商業學校では航空思想を生徒に普及する目的の下に今度滑空機を購入練習用に常設することになつた

このグライダーは約八百圓で同校父兄會が寄贈するとに成つてをり航空協會からの補助もあるので大体六百圓見當である

尚ほグライダー購入については父兄會役員が近く具体化する筈である、右について學校側當局は『時局柄誠に當を得た父兄會の試みであり感謝してゐます、贈呈されると滑空部を設けて練習し航空思想の普及に努めたい』と大喜びである

蠶絲 統制會社設置

蠶繭納入・指導員割當も決定

平管內準備全く成る

蠶絲統制會社の設置に伴ひ地方蠶業も愈々一元的統制下におかれることに成つたので平蠶業取締所が主体と成つて管內の整備を急いでゐたが各町村別の蠶繭納入先は割當られ納入見込數も各町村別に決定した又一方町村養蠶指導員は同取締所並に各蠶絲關係組合下に置かれたものを一元的に同取締所の指導下におき各町村別の指導員も次の如く人員を整備した

△一名平、好間△一名泉、渡邊△一名植田△一名山田△一名錦、勿來△一名上遠野△二名入遠野△一名川前△一名田人△一名荷路夫、石住、貝泊△一各夏井、神谷△一名飯野、內郷、鹿島△一名高久、豊間△一名玉川、磐崎△一名赤井△二名永戸、箕輪△二名澤渡、三澤△二名草野△一名大野、四倉△一名大浦△二名上下小川△一名川前

尚は各町村別の蠶繭納入先並に納入見込み數は次の如くである（單位貫）

△平、三、五七二(石双乾繭)△泉、六三八(同)△渡邊、二三八七(同)△植田、四、五三一(同)△錦四、六二六(同)△山田、六、九一七(片倉)△勿來、一、〇三二(石双乾繭)△上遠野、五、八〇五(郡是本宮)△入遠野一一、七二八(片倉)△川前、六、一三一(石双乾繭)△田人、五、六三八(片倉)△荷路夫、五二九(片倉)△石住、一、三九六(同)△貝泊、一二九五△飯野、一、七七五(同)△夏井、四、四二一(同)△高久、四、〇四五(同)△豊間、九一五(同)△鹿島、四八五(石双乾繭)△玉川、一九二(同)△磐崎、一三二五(同)△內郷、三三六(片倉)△好間二、二一八(石双乾繭)△赤井、五、五六(片倉)△永戸、六、三五一(同)△箕輪、一、九二一(同)△三坂、六、一七九(同)△三澤、三、二二七△神谷一、五三八(石双乾繭)△草野一〇、五七〇(同)△大浦七、七八三(同)△四倉一、二三五(同)△大野七、三七七(同)△上小川二、八一一(同)△下小川六、四九七(同)△川前六、八一三(同)△江名三七(同)

平商遠足

平商業學校では今二十二日午前八時半より新舞子に鍛錬遠足した

桑園整理順調

馬鈴薯完了、甘藷に着手

石城郡下の荒廢桑園整理は既報の如く農會並に蠶業取締所が主体となつて實施して來たがうち馬鈴薯の轉作反別は播種の都合で既に完了十五年度分五町八反歩十六年度分三十八町八反歩は殆んど作付けを終り殘るは甘藷二十一町三反歩、陸稻五町歩であるがこれも作付け期までには全部整理終了の豫定である

東京―平 定時通話開始

希望時刻に通話出來る

平地方は時局産業の常磐炭田を控へ物資の集散地と成つてゐる關係上市外電話は極端に輻輳し、至急報でも相當時刻を待される狀態にあり頗る遺憾とされてゐたが、平郵便局の要望が容れられ本月二十日から平、東京間に定時通話の取扱を開始した

定時通話といふのは前日の午後四時から通話時刻の一時間前迄に定時通話として局に申し込んでおけば必ずその時刻に通話できるもので、現在のやうに至急報でもなか〳〵豫定通りに通話困難な時に際し之を利用すれば確實に豫定の時刻に通話出來るので各方面からこの取扱を期待されてゐる、但し料金は普通料金の四倍といふことになつてゐる

大野村地內 砂防工事

今年も繼續決定

石城郡大野村地內山斜地の砂防工事は年々繼續施行され仁井田川上流の災害を漸次取除かれて居り昨年は同村白岩地內の同工事に六千圓を投じられ本年度の施行は決せられずにゐた處、今回引續いて行ふことに決まつたので縣山林課平出張所に於て計畫設計を進めてゐる

同工費は大体前年に同じく六千圓程度と見られてゐる

縣林産物 檢査所

來月初旬落成式

縣林産物平檢査所は工費二萬四千餘圓(設備費含む)で平市正月町第三國民學校前へ新築中の處門と塀を殘して建物は竣功したので來月初旬落成式を擧げ平市から縣へ移管することに成つた

この廳舍は平市から二千圓寄附し他も一般の寄附金に依つて今年二月着工した木造二階建である

『多磨艦上』點呼

五月廿、廿一兩日執行

小名濱灣頭に擧行される海軍艦上點呼は五月二十、二十一の兩日巡洋艦多磨が廻航される旨小名濱町役場に通知になつた町鄕軍分會では例年に倣つて艦上見學に便する爲めハシケを用意する筈である

"日新會"總會席上で 星代議士講演會

藥學專門學校創設の苦心談

青壯年の修養團体として星代議士の後援を受けてゐる日進會では昨廿一日午後六時から平驛前住吉屋支店に於て幹部會を開き行事の打合せ並に同會の整備擴充について協議したが今廿二日平市に開催される縣主催の增産擴充協議會に出席の爲め來平を機會に席上星氏の講演を請ひ時局問題から星製藥が豫ねて計畫の藥學專門學校を創立する迄の苦心談に添へて虐められるものは幸福であると語り獨逸の今日あるも其爲だと思ふ、私は早くより藥專から同大學までを建てるべく心組んでゐたが貧乏でなか〳〵出來ず昨年半ばに文部省に願つて色々ともみぬかれ三百萬圓の財團法人を三百十萬圓とし四月十六日學生募集の認可を得て廿六日に締切り廿七、八兩日試驗を行ひ百五十名の入學者を採る譯だが千人程の志望者に達したそうである五ヶ年後には一千萬圓の財團で大學を建てたい計畫であるが東亞の新秩序は人を造ることだ、藥專は勿論製藥と化學工業の技術者を出すのだが廣く生徒を集めて日本獨特の學問を教へる、現在の藥は主として獨逸のものを學んでゐるが副作用が多い、我が學校には漢法醫藥の先生も置くので近く支那へ賴みに行くそして學校の研究所と會社の研究所と工場の研究所を三者一体として進んで見たい等々盡きざる言を閉ぢて座談會に移つて平商業報國隊の來會を加へ百五十餘名が打ち碎けた交語を十時近くまで續けて散會した

星藥專

廿八日開校

星商業學校の專門學校への昇格は豫ねて計畫されてゐたがこの程認可指令に接したので二十八日から星藥學專門學校を開校することに成つた

平の今昔 (五)

貧乏藩の原因は

三萬石で五萬石の扶持米

お壕や門の行衞？

それではと仙台屋さんを辭去して今度は市內新田町梅の湯前木村タバコ店へ行つて見た『さあ天主台の上にあつたものかどうですか礎はあります』同家の主婦さんの案內で庭の中に見えなくなつて居るその二を見ると、正に仙台屋さんの物と形も色もそつくりだ、『おばあさんでも生きて居ればどうして手に入つたか判るんでせうが今では全然わかりません』とその主婦さんの話だつた、この外紺屋町の鹽屋さんにもあるとの話だが同家には遂にお伺ひする機會がなくて殘念だがこの讀物には間に合はなかつた。

さてこんな中でそれでもおほりだけはかなり後まで殘つて居てありし日を物語つて居たがそれも明治二十九年平驛の開通に先立つて全部埋められて仕舞つた。今僅かに磐城高女前にさゝやかな水たまりとなつてその面影をとゞめては居るが〃平五萬石あやめのおほり〃の平小唄は勿論しのぶによしない有樣だ。

前に一言した城內の中、天主台に登る右手濠の所、今の驛改札邊の上にあつたのが大手門で、不開門は現市役所と驛前住吉屋支店との間住吉屋支店寄りのほりの手前に不開門(大手門)おほりの左手白坂にも城內へ行く門があり、平名所の一つ平區裁判所上手のコンクリートモダン陸橋高麗橋には高麗門があつたとは平市鍛冶町三國屋印刷所高野吉太郎翁の話だ、鍋田翁の話によると大手門と不開門とは別で、白坂門の上にあつたのが大手門で、不開門は田町銀座の酒喜屋そばやの所にあつたと言ふ話だ。現在紅小路と稱して絃歌さんざめく花柳界新田町邊も當時外濠だつたもので、驛開通と共に埋めつくされた水の上、ドブの上にその色街は發展した。平五萬石あやめのおほりは姿かたちこそ變れ數十年後あやめとなつて紅小路に返り咲くなど水商賣、水に緣があつて面白い。

平城主が貧乏だつたと書いた際、書き落したが大体一萬石は士族百人と言ふ譯で平城主安藤對馬守は五萬石時代の士族五百人を三萬石になつてもそのまゝ維持したので經費に迫はれ非常に貧乏した。しかしこの貧乏が維新當時の士族達にどんな結果をもたらしたかと言ふと一寸笑へない皮肉な話がある。

德川幕府の崩壞は士族の生活を根底から搖り動かし、さら[illegible]日頃からピー〳〵だつた平藩士の生活は想像するだに余りあると言ひたい處だが事實はその逆を行つて大して平の藩士達は路頭に迷ふ樣なことはなかつたと言ふのは平藩士達はもと〳〵先きに言つた樣に三萬石で五百人の士族が居たので扶持米が少なく家計不如意の處から江戸詰藩士すらも箸けづり、羽子板作り、傘張り、凧糸作り、足袋の小はぜ縫等をやつて苦心慘膽暮しをたてゝ居たので突如として襲つた失業にも慌てる樣なことはなかつた。今八幡小路に住む鍋田三重翁の曾祖父の有名な昌山先生の如きもこの箸けづりをやつて居たと言ふ話だ、何が幸ひとなるか人間界の出來事は全く一寸先きは解つたものではない

砂糖不正事件一束

蒲鉾やの背任

休業店の砂糖分配

江名町蒲鉾工業組合理事長北目町佐藤已之藏(五〇)理事南町加澤保太郎(四八)幹事南町中田平治(四五)理事南町坂本龜吉(三六)同風越星庄太郎(六〇)幹事南町酒井德治郎(四四)同北目町佐藤忠次(四〇)配給砂糖世話係加澤信藏(五七)同北目町加澤一造(六一)の九名は同組合員金成德治が昨年九月より妻かねが病氣のため蒲鉾工業を休業してゐるのを奇貨に金成に割當の砂糖三ケ月分百三十七貫六百匁を分配消費したこと探知され平署に背任罪で檢擧された

これも 砂糖違反

佃煮組合の不正

小名濱町古港九十五番地貨物自動車業平野直康(四八)は縣つくだ煮工業組合に加入してゐるが同組合から配給される砂糖十五年十一月から今年一月まで二千六百八十斤を『業務上賣買してはならぬ』法規を無視して同町西町不二水産株式會社取締役高木武士(四〇)に賣却し砂糖配給統制違反として書類を送局された

幹部の不正發覺

小名濱の砂糖事件

小名濱町中明神町小名濱商業組合菓子部長菓子製造販賣業瀬谷六郎(三九)同中町同組合菓子部會計係黑田三嗣(四九)同菓子部前幹事瀧邦松(四九)同菓子部副部長上遠野雅義(三七)同前幹事高橋修治(五三)同前幹事馬目久雄(三〇)同前幹事平子一次(三九)同前幹事米良歸一(四〇)の八名は去る十四年十一月同商業組合內に菓子部を創設したが昨年六月より十一月まで日本菓子工業組合聯合會より割當配給になつた砂糖を二分目減りに拘らず五分目減りとし全數量より二千三百七十一斤を胡麻化し前記役員が一人當り二百九十六斤餘宛を分配自家菓子製造用に使用したこと發覺平署に檢擧された

砂糖轉賣

江名の事件

江名町南町九十番地漁業家佃煮業和深七藏(五六)は佃煮工業組合から配給になつた十、十一月二ケ月分の砂糖一千九百六十斤を和深が佃煮工業の準備中で砂糖を使用しないのを奇貨に秘かに同町北町佃煮業加澤一造(六一)に賣却したこと發覺、平署へ擧げられた

家賃暴利

平署から送局

平市八幡小路十八番地農長澤貞寅(六四)は十四年二月より同八幡小路十八番地貸家平屋二戸のうち小泉源三郎さんに八圓、森惠治さんに七圓五十錢の家賃で貸してゐるうち二軒共五十錢宛の値上げし合計二十五圓の不當利益を喰つて統制令に觸れ平署へ……

◇

平市道匠小路二十五番地佐川久直(三五)は貸家一棟十圓五十錢を高木善次さんに十二圓に値上げして貸し三十一圓五十錢の不當利得を占めて平署へ

運轉手居眠し 德丸坐礁

警防團員救助に急行

江名町大字江名佐藤德太郎所有德丸(二十五トン船長坂本寅吉外十一名)は二十二日午前二時頃双葉郡木戸村前の原沖合を航行中運轉手の居眠りから誤つて坐礁、急報により江名町警防團からは五十五名の團員が漁船三隻に分乘して急行離礁作業に努めたが激浪のため船体の破損甚しく損害甚大の見込み、尚乘組員は全部救助された

目拔け好漁

身欠鰊も大量出廻る

魚市場も活潑

石城沿岸目拔船約六十隻は連日三百貫內外の水揚げを見せ濱相場十三割四分の定價一ぱいを稱へ閑散勝な魚市場を賑はしてゐる、この目拔船は北洋カムチツヤカの獨行船出漁期まで約半數が沿岸目拔漁に從事することに成つてゐる

一方北海道産の季節もの身欠鰊は今二十二日六百尾入れ五十箱が平魚市場に出廻り百匁三十一錢五厘(小賣三十八錢)の公定一ぱいの取引があつた、次の入荷は二十五日で六百尾入れ二百二十箱の豫定である

國債消化

隣組協力

八千五百圓割當

第二十一回國債は二十一日より郵便局窓口より賣出されたが翼贊會平支部では市內隣組を通じ前回通り國債を割當てる筈だが八千五百圓に上る見込みで一組平均八十圓見當、消化力の旺盛な今日忽ち賣切れの豫想である

隣組花祭り

小名濱町東町內會第八組では組長酒主亮道氏が僧侶の關係で二十日午後一時より修生院に花祭を擧行し組內小供會員を集め酒主氏から御釋迦樣の紙芝居、町役場翼贊會主任大浦氏の童話等があり和かな半日を過した

海員生徒

受驗十七名

今日應募試驗

宮古海員養成所では小名濱町に於て今二十二日應募者の試驗を執行した、申込者十七名で地元小名濱、江名は一名の希望者なく試驗官に異樣な感を與へた

宮古海員養成所受驗資格は高卒で被服食費を給し二ケ年修了後は二等運轉士の免許を得、更に一ケ年修了すれば一等運轉士として遞信省の免許を獲得出來る有望な養成所である、毎年四月と九月に受驗者を募集する

漁夫連閑居

花札賭博

五名一網に檢擧

小名濱町古港二十八番地漁夫西村昌太郎(三二)同松村英治(三二)塚原扶(三二)同網谷英造(三三)同山本達雄(三九)の五名は去る十八日午後六時半頃同古港野崎貞行方漁夫長屋で「十丹」と稱する賭博を開帳平署に檢擧された

職域奉公に 土木組合

小名の業者結合

平土木建築請負産業報國會小名濱方部事業主は去る十七日午後六時三崎組太田勝康氏宅に集合し、産業報國に協力し相戒め臣道實踐を地で行く爲め、新に〃小名濱土木建築請負業統制組合〃の結成を見た、會員は土木、建築左官、瓦職、大工、潜水夫等で組合長には太田勝康氏副馬上兵吉氏會計馬上熊太郎氏幹事作山安太郎氏外五名で顧問には小野晋平氏が推戴された

日水社長

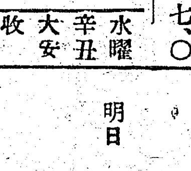
日本水素工業新社長大和田悌次郎氏は二十五日午後一時半泉驛着列車で來小日素工場の初巡視を爲し同五時半出發、平市へ一泊の豫定

海軍建築部 軍夫募集
一、職種 士工、大工、運轉工、鍛冶工
一、資格 年齡十六才以上五十才迄の男子
一、待遇 實收賃金一日二圓八十錢以上 宿舍官給、食費自辨
一、勤務地 茨城縣下
一、締切 四月廿五日
申込所 平國民職業指導所

商況

（二十二日）

	高	安
【野菜】		
葱	一三	七
人參	三〇	二五
油菜	八	四
蓬蓮草	五五	
大根	三〇	二〇
筍		一〇〇
ウド	一二〇	九〇
水葉	六五	
【鮮魚】		
目拔	一三、四	
アンコ	八、〇	
マツカハ	一二、二	
平目	五四、〇	
ドンコ	一一、〇	
ニクモチ	二七、〇	



舊三月廿七日
新四月廿三日

水曜 辛丑 大安 收 軫宿

▲一白 內輪揉めを生ずるも人の口きゝにて治まる
▲二黑 當初の順調なるに反して次第に苦境に陷る
▲三碧 自尊心高きは人々の交和を薄らぐべし注意
▲四綠 家庭の融合は自ら人々の尊信を增す基なり
▲五黃 平穩無事を希ひ妄りに計畫を起すべからず
▲六白 我意と短慮とを愼み忠直に勵めば大功あり
▲七赤 策略圖に當りて志望を遂ぐべき佳良なる日
▲八白 虛榮を去り驕奢を愼しみ堅固に身を持ち吉
▲九紫 大事を遂げ巨利を博せんとせば失敗を招く

天氣豫報

今晩 北西の風一時强く晴れ勝ちです
明日 初め北西の風後南の風晴れ勝ちですが雲が出ます

（二十三日）

滿潮 前二、三五 後二、四〇
干潮 前九、〇〇 後九、〇〇

割烹
尼子亭
別府(峯)温泉

おちの良い マルミ粉石鹸 平市材木町二 發賣元マルミ本舖

東京玩具デザイナー阿部治良氏傑作
人形と動物の展覽會
廿六日マデ即賣致します
配給品 軍手、タオル、學生靴下、學生服、衛生綿は期限が切れしましたがまだ御引替致しますからお早くおいで下さい
女店員募集 十六才より通勤 市內外住込可
平市 大黑屋